

発達障害児への支援 —「診療」+「福祉」+「相談」の融合—

社会福祉法人 京都府社会福祉事業団（京都府）

住 所	〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375 京都府立総合社会福祉会館6階	
TEL	075-222-2212	
URL	https://www.ksj.or.jp/	
経 営 理 念	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉施設としての公的責任を果たす施設であること 2 利用者の権利を擁護し、利用者本位の、利用者には選ばれる施設であること 3 地域福祉の向上のため、地域との連携を図り、地域から信頼され、地域に開かれた施設であること 4 主体性のある法人・施設をめざすこと 	
事 業 内 容 (箇条書き) 及 び 定 員	障害者支援施設（50名）1か所 病院（25床）1か所 養護老人ホーム（100名）1か所 救護施設（100名）1か所 母子生活支援施設（20世帯）1か所 障害者支援施設（養成施設）（60名）1か所 障害児入所施設（30名）1か所 児童養護施設（30名）1か所 児童発達支援センター（診療所含む）1か所 発達障害者支援センター 1か所	
収 入 (法人全体) 令和元年度決算	O 社会福祉事業	1,763,511,467円
	II 公益事業	584,246,287円
	P 収益事業	
職 員 数 (法人全体)	336名（非常勤職員・派遣職員含む）	

発達障害への支援

～「診療」＋「福祉」＋「相談」の融合～

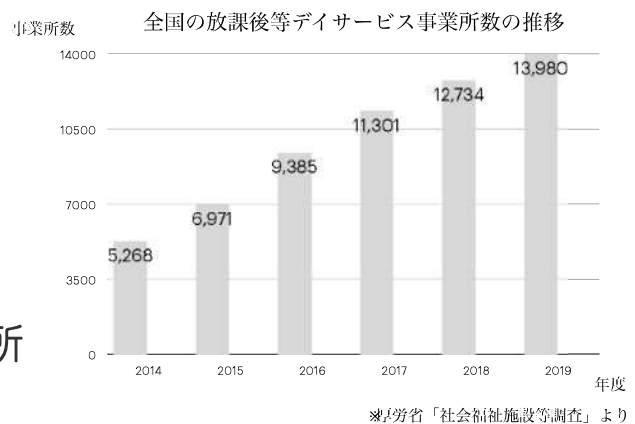
社会福祉法人京都市社会福祉事業団

急増する事業所数

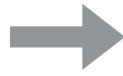
2014年 5,267箇所

2.7倍

2019年 13,980箇所



課題：サービスの
質の向上



「サービスガイドライン」は
あるが...

○「放課後等デイサービスガイドライン」

- ・「放課後等デイサービスはこうあるべき」と、特定の枠にはめるような形で具体的に示すことは、技術的に困難
- ・支援の多様性は否定されるべきものではない

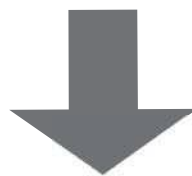


運営の「基本的手法」を示したものとどまる

○「放課後等デイサービスの実態把握及び質に関する調査研究報告書」(R2.3月 厚労省委託調査)

- ・「放課後等デイサービスの質を検証するための基礎となる基準・水準」が定められていない
- ・検討を重ねたが、「サービスの質をどう検証するか」の項目を明らかにするに至らなかった。

→ 対象者の年齢が幅広いこと。「サービスの質」の定義が統一化されていない。



「診療」＋「福祉」＋「相談」
の融合で全国のモデルをめざす



テーマ：多職種専門職員連携のもとで障害児を支援する施設として、
どんな放課後等デイサービスの「質の向上」をめざすか

各部門の様々な
専門職種



具体的には...

専門的な療育の実践

- 対象児童の障害程度や行動、特徴、理解力やコミュニケーション力など多角的な視点から、児童に合った関わりのできる事業所をめざす→SST (ソーシャルスキルトレーニング) を用いた集団活動による支援
- 実践で構築できたカリキュラムや関わり方のポイントなどを府立施設として地域の他の事業所に波及させることをめざす

放課後等デイサービス事業 スタート

- 平成30年10月～
京都府立こども発達支援センター（京都府京田辺市茂ヶ谷）敷地内に建設された新棟内で、開設
- 同施設は、平成15年8月に設立以来、児童発達支援センターや医療型児童発達支援・子ども対象の診療所や保育所等訪問支援事業を実施しており、そこでの経験を持つ職員を中心に配属

こども発達支援センター



こども発達支援センター
敷地内 新棟



診療

福祉

～発達障害児に対する医療機関と福祉事業所との連携～

- 発達障害児の専門医師の診療
- クラス分けについても専門的見地からアドバイス

こども発達支援センター
診療所 医師から
放課後等デイサービスの利用
について保護者に打診



保護者から申し込み

↓
保護者との面談

↓
親子での面談

↓
グループ決定

申込者に対して面談を行い、対象児の情報を集めながら、診療所医師や他職種の専門職から意見を聴取して、活動グループを決定



通所後の連携



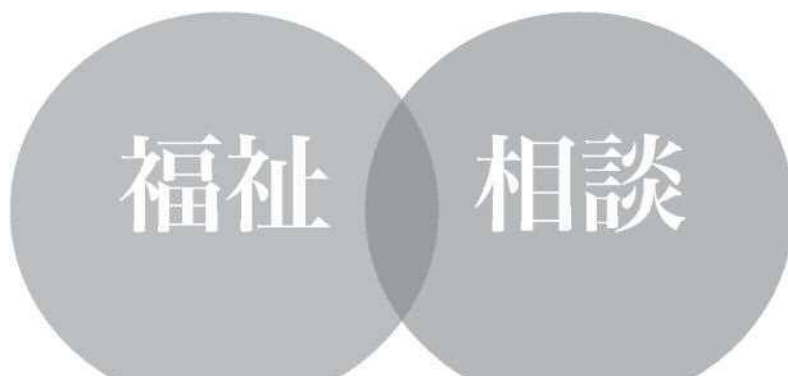
診療所医師や他職種の専門職が参加する会議を定期的に行い、グループでの活動内容や対応が難しいケースの関わり方などを検討

↓
契約締結
通所開始

市町村

受給者証取得手続き

受給者証発行



～福祉事業所と発達障害の専門相談機関の連携～

- 放課後等デイサービスが行うSST（ソーシャルスキルトレーニング）を用いた集団活動に対してモニタリングと助言を繰り返しながらサポート

京都府発達障害者支援センター「はばたき」

発達障害のある方とそのご家族が、地域の中で安心して、より豊かに生活できるよう支援する機関。

相談（発達・生活・就労等）、指導・助言・心理判定を行える職員が在籍。

発達障害に関する普及・啓発も担っており支援者の養成や研修・講演会なども開催。

平成30年10月からは、児童生徒を対象としたこども相談室も開所。



連携のイメージ



ある日の活動例

モニタリング



発達障害者支援センター
職員

ターゲットスキル

「自分の意見を伝える」

スキルを身につけるためのポイント

- o 自分や相手を下に見ない
- ㊦ 自分の気持ちに正直になる
- o 自分の考えをはっきりと伝える
- R 自分の発言や行動に責任を持つ
- r 相手の気持ちを考える

場面：遠足に着ていく服装を話し合っています

Aさんは私服を希望/ Bさんは体操服を希望

進め方 ※ 職員は、リーダー役とコリーダー役(板書等で補助)に分かれて、
こどもたちの話し合いをサポート

どんな伝え方をするかを事前に考えて
もらう(ワークシートに記入)

考えにくい子へは
職員がサポート

↓
ロールプレイ

↓
ふりかえり



モニタリング後のアドバイス (一部抜粋)

発達障害者支援センター
職員

リーダーの役割



こどもの発言に対してポジティブに返したり、意見を取り上げて全体に紹介していたのはとてもよい

スキルのポイント



「スキルを身につけるための留意点」をもっと具体的な行動で表現すること
「はっきり伝える」→「相手の顔を見て聞こえる声の大きさと伝える」等
その方がこども達にとっても他児へのほめ方が明確になり、ポジティブなやりとりが増える

ワークシートの活用



ロールプレイ前に伝え方を考えるためのワークシートは、緊張が強い子であれば、書くことで整理でき、落ち着いて取り組めるというメリットがあるが、今回のグループの場合は活発に話し合っていたので不要かも。ワークシートを書くことで、流れが断ち切れたり、時間がかかったり、落書きなどで注意が逸れる可能性もあるため

次回以降の取り組み →

・言葉が同じであっても、表情や声の様子で感じ方が違うことを体験してもらう

・突然、自分の考えを話すのではなく、「なあなあ」「ちょっといい？」などのクッション言葉を使うことを、「スキルを身につけるための留意点」の中に盛り込む



場面は少し変更するも、

・「スキルを身につけるためのポイント」を一部変更
・良くない例と良い例を示し、こども達にとって、とるべき行動と反応などを具体的に考えることができるようにサポートしてみる

として、次回も同様のターゲットスキルについて取り組んでみる。

アドバイスを受けて…

ターゲットスキル

「自分の意見を伝える」

場面：友達と遊んでいます。UNOをしようとなつていますが、私はトランプがしたいと思っています

スキルを身につけるためのポイント

- o 自分や相手を下に見ない
- ㊦ 自分の気持ちに正直になる
→自分のやりたいことを伝える
- ㊧ 自分の考えをはっきりと伝える
→相手に聞こえる声の大きさを伝える
- ㊨ 自分の発言や行動に責任を持つ
- ㊩ 相手の気持ちを考える
→意見を聞いて相手はどう思ったか尋ねる

一部変更

行動と対応の例を示す

良くない例o : 聞こえないくらいの声で「トランプしたいな…」と言い、友達は誰も気づかない

良くない例㊦ : 「絶対トランプ！」と主張し、友達は驚く

良い例 : 「ちょっとトランプしたいなと思ってるんやけど、どう？」と伝え、友達も「いいよ！」と答える

こども達の変化

- 1 良いところや良くないところへの気づき・意見が増加
→「意見がしっかりと伝えられている」「伝えることはできたと思うが、少し強引過ぎるように感じた」などの意見があがる
- 2 どこに留意して対応すれば良いか理解が深まったためか、他児を褒めることができた
→「スキルを身につけるためのポイント」を具体的な表現（声の大きさ等わかりやすい指標を示した）へ変更したことが影響
- 3 表情による印象の違いが話題に上がったため、みんなでその体験を試してみる契機となるなど、こども達の視野の広がりを感じた

連携による効果

- ・ 医療的視点での通所判断が、保護者への理解と協力を促し、効果的な関わりが期待できる
- ・ 障害特性や児童の状況を、こども発達支援センターでの専門的視点により効果の高いグループ分けを行い、クラス編成できる
- ・ SST（ソーシャルスキルトレーニング）を用いたクラス活動へ、発達障害に係る相談・指導実績のある職員からの助言で、更なる充実につながり、ひいては放課後等デイサービス職員の人材育成へもつながる



診療

福祉

相談

今後の展開に向けて

- 助言を受ける前後の変化や、関わりかたの留意点をまとめ、ストックしていく（放デイ）
- クラス編成初期の段階で、児童の状況を理解し、その上で適切な助言を行えるよう関わる（発達）

・こども発達支援センター（診療課）と発達障害者支援センターとの連携を通じ、職員のスキルアップを図り、専門性を向上させ、他の事業所のモデルとなることをめざす